

小学校ではじめて出会う外国語活動を円滑にスタートするための工夫
～英語嫌いをつくらないことをめざして～

1. 設定理由

船橋市では、小学校において第1学年から第4学年までは週0.5時間、第5、6学年は週1時間の「英語科」の授業が行われている。しかし、特に近年、次の学習指導要領では、既に英語が第3学年から教科とされることが決定しており、保護者の間でも、関心が高まっている。そのような状況の中、小学校入学前から既に「英語嫌い」、または「苦手意識」を持つ子どもも見られるようになった。

そこで、小学校第1学年、特に入学して間もない時期に、入学前から英語になじんでいる子どもたち、英語の学習は全くはじめてで不安と期待でいっぱいな子どもたち、入学前から苦手意識がある子どもたち、その全ての子どもたちを巻き込んで、英語嫌いをつくらないための授業づくりを行いたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

低学年の子どもたちならではの発達段階の特性を活かして、自然な発話を促すような指導方法を工夫すれば、「英語嫌い」にならずに小学校で初めて出会う外国語活動（英語科）を円滑にスタートし、英語学習への興味・関心を持とうとするであろう。

3. 研究内容

- (1) 子どもの実態把握と問題の所在について
- (2) 英語嫌いにさせないための手立ての考察
- (3) 授業を通しての検証とまとめ

4. 結 論

- 小学校低学年の子どもたちの発達段階ならではの特性を活かして、自然な発話を促すような指導方法を工夫することは、子どもたちが一人ひとりのレディネスに関わらず「英語をいっぱい使った」という充実感をもつことにつながり、小学校ではじめての外国語活動（英語科）を円滑にスタートするために有効であることがわかった。
- 歌、音声、ジェスチャーを多用する手立てを行った結果、特に、入学前から英語に対して苦手意識のあった子どもに、英語学習の不安の軽減が見られた。

小学校ではじめて出会う外国語活動を円滑にスタートするための工夫 ～英語嫌いをつくらないことをめざして～

1. 設定理由

2020年の東京オリンピック開催が迫る中、次期学習指導要領の改訂により、外国語活動が第3学年から教科化（第3・4学年は週1時間、第5・6学年は週2時間）されることが報道され、社会的にも外国語活動に対する関心が高まっている。

船橋市では、2007年度（平成19年度）から、小学校においても英語は教科としてとりくみ始め、現在も第1学年から第4学年までは週0.5時間、第5、6学年は週1時間の「英語科」の授業が行われている。授業形態としては、船橋市教育委員会発行の“English Curriculum”（参考文献①）をもとに、教員を中心に、ALTやJC（日本人コーディネーター。主に授業プラン作成を担当。）と協力し、小学校外国語活動における下記の目標に沿って、コミュニケーション活動を中心とした授業を進めている。

○船橋市小学校英語科指導ガイドライン

1. 目標

船橋市

【小学校英語科の目標】

英語活動を通して、言葉や文化に関心を持ち、友達や様々な人とふれあう中で、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、聴いたり話したりする活動を中心にして自分の気持ちや考えなどを相手に伝え合う実践的コミュニケーション能力の素地を養う。

学習指導要領

【小学校外国語活動の目標】

外国語を通して、言葉や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

そういった状況の中、子どもたちは、小学校入学前から、在籍していた幼稚園によってはALTによる英語の時間を経験していたり、英語塾に通い始めていたりすることにより、英語に対するレディネスの差が大きくなっている。特に、小学校入学前から既に「英語嫌い」、または「苦手意識」を持つ子どもも見られるようになった。

従って、小学校第1学年、特に入学して間もない時期に、外国語活動（英語科）を円滑にスタートするためには、入学前から英語になじんでいる子どもたち、英語の学習は全くはじめてで不安と期待でいっぱいな子どもたち、入学前から苦手意識がある子どもたち、それぞれの課題をもつ全ての子どもたちを巻き込んで、楽しく活動できる工夫が必要となる。

そこで、コミュニケーションの第一歩としての小学校1年生の外国語活動の中で、子どもたちを英語嫌いにさせないために、ALTやJCと連携し、歌や音声やジェスチャーを多用し、小学校低学年の発達段階ならではの特性を生かした支援を行っていきたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

低学年の子どもたちならではの発達段階の特性を活かして、自然な発話を促すような指導方法を工夫すれば、「英語嫌い」にならずに小学校で初めて出会う外国語活動（英語科）を円滑にスタートし、英語学習への興味・関心を持とうとするであろう。

（１） 船橋市における外国語活動（英語科）のスタートについて

小学校第１学年から週０．５時間行う。その第１学年及び第２学年の目標及び内容は以下のとおりである。

【小学校：第１学年及び第２学年】英語学習への興味・関心を持とうとする

- ① 英語を用いて楽しく会話しようとする。
- ② 身近な場面での会話に慣れ親しみ、反応しようとする。
- ③ 習った英語を用いて、はっきり伝えようとする。
- ④ 外国語の音声やリズムに慣れ親しむ。
- ⑤ ALT とのふれ合いや英語の絵本の読み聞かせ等を通して、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いに気付く。

本研究では、特に年度初めの第１学年の子どもたちが上記④（及び付随的に②）の内容にとりくめることをもって外国語活動（英語科）の円滑なスタートとする。さらに、この円滑なスタートこそが、子どもたちが英語嫌いにならず、英語学習への興味・関心を持とうとする態度につながることを期待するものである。

（２） 低学年の子どもたちならではの発達段階の特性について

第２言語の習得の際に、低学年の子どもたちの以下のような特性を大いに活かすことが大切だと思われる。（参考文献①）

- ・身体を動かすことが大好き。ジェスチャーも恥ずかしがらない。
- ・歌が大好き。
- ・”まねっこ”が大好き。聞いた音をすぐまねようとする。（→伝える・伝わる喜び）
- ・言葉を（日本語に直すのではなく）場面や状況で覚えていく。

上記（１）～（２）をもとに、聴かせた音をすぐに発音させようとするのではなく、英語に浸らせ、自然な発話を促すような指導方法を工夫していくことができれば、子どもたちは英語嫌いにならずに外国語活動（英語科）を円滑にスタートし、英語学習への興味・関心を持とうとするのではないだろうかと考え、本仮説を設定した。

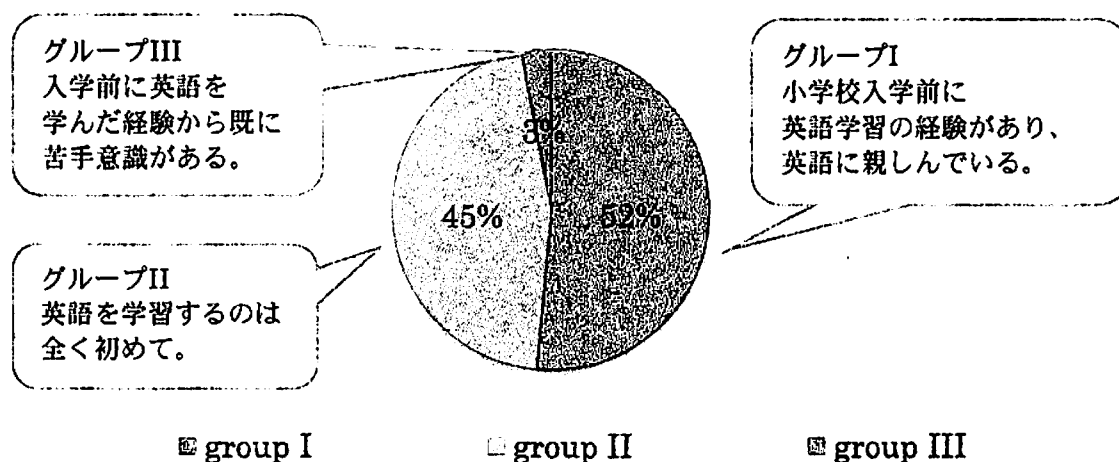
3. 研究内容

（１） 子どもたちの実態把握と問題の所在について

本研究で問題の所在が明らかになったきっかけは、第１学年の教員として、４月に入学してきて出会ったばかりのＡの「小学校って、英語あるの？わたし、英語、嫌い。」という言葉であった。

他の子どもたちから、「Aは、幼稚園のときから恥ずかしがり屋さんで、お話ししないの。」と聞いていたAが、自分からこのように教員に話しかけてきたということは、余程不安だったに違いない。そこで、学級全体でも実態調査（アンケート及びインタビュー）を行った。（調査人数 男子16人、女子17人 計33人、実施日 2013年4月12日）

子どもたちの英語学習のレディネス



子どもたちは4月10日に小学校に入学し、やっと学習や生活に慣れてきたところである。33人中、18人が同じ幼稚園出身で、ネイティブスピーカーによる英語のレッスンを通じて英語の挨拶・動作・色・数字（1～100まで）などの英語に親しんできている。18人の中には、既に英語が苦手と感じているAも含まれる。

アンケートの結果、英語学習のレディネスは上記グラフのとおりであり、さらに子どもたちに、これから始まる英語学習への想いについて聞き取り調査をしたところ、内容は以下のとおりであった。また、実際に授業が始まると、それぞれに課題があることもわかった。

○グループI：幼稚園や塾で英語学習の経験がある。

- ・英語を習っているから、知っている。英語は簡単。 8人※
（※内2人はアルファベットの小文字も認識）
- ・家庭でテレビやDVDの英語教材に親しんでいるから大丈夫。 3人
- ・祖母がスイスにいたので英語を話したいから楽しみ。 1人
- ・外国のことを知りたい。 5人
- 【課題】誤った発音や思い込みの知識を身につけている。大いに自信を持っていて矯正が難しい。英語を“遊び”と思っていて、ふざけてよい時間と勘違いする。

○グループII：英語は初めて。

- ・楽しそう。 8人
- ・外国の人と話したり、外国に行ってみたりしたい。 2人
- ・習ってないけど大丈夫かな。 5人
- 【課題】皆、同じところからのスタートであるにもかかわらず「習っていない」ことに対する不安感がある子どもたちがいる。ふざけて遊べる時間というような誤った認識に基づいた期待が高い。

○グループⅢ：英語学習の経験から既に苦手意識がある。

・わからないから、嫌い。うまく言えない。

1人

→【課題】英語教室に向かうだけでも、不安が強く、立ちすくむ。

このように、英語のレディネスの異なる子どもたちが、外国語活動（英語科）について様々な想いを抱いている。この実態からも、全ての子どもたちにとって、第1学年ならではの、楽しく、「できた」という充実感のある20分間の外国語活動にするための工夫が必要であると考えた。

（2）英語嫌いにしないための手立ての考察

① 指導のポイント（参考文献①）

上記（1）の子どもたちの実態を踏まえ、20分という限られた授業時間、日本語での叱責や注意を繰り返すことなく“英語”に浸らせるためには、「授業前」「授業中」「授業後」のそれぞれの場面において、以下のような手立てが有効と考えた。

（a）授業前

レッスンプラン・打ち合わせ

学級指導

（b）授業中

リズム・動作・視覚教材

簡単な英語を用いて

（c）授業の終わりに

評価

次の授業に向かって

（a）授業前

《教員の準備》

- ・英語のレディネスに関わらず、どの児童も楽しめるような授業構成の工夫：
⇒すぐにわかる簡単な英語の言葉を、絵・歌・絵本・動作等と結び付けて、まず、繰り返し英語の音を聞かせることから始める。1年生の児童は”まねっこ”が大好きであることから、無理にリピートさせようとするのではなく、自然に発話したくなるのを待つ（子どもたちの様子によっては、少し発話も促していく）ような授業を計画する。
- ・ALT/JCとの打ち合わせ時間の確保・英語ルームの整備：
⇒上記の授業の実践のためには、ALT/JCとレッスンプランを確認し、授業を盛り上げるような小道具や掲示物を協力して作り、デモンストレーションしておく。
※英語ルームでの指導は、入室した瞬間に「英語」の雰囲気になれることができるので非常に有効である。掲示物で楽しい雰囲気を盛り上げたり、あらかじめBGMを流しておいたりすることができる。英語を使った作品の掲示もできる。誠に残念ながら、現在は学級増のため、英語ルームはなくなっている。裏面にマグネットを貼ったイラストを活用することで、素早く、教室を英語の雰囲気に変えるなどの工夫が必要となっている。
⇒不安が強く、配慮が必要な子どもの存在と対応についても座席の位置やグループ配置なども含め打ち合わせしておく。

- ・学級の風土作り
⇒「間違えても大丈夫」という学級の雰囲気作り
⇒誰とでもペアで活動できるような親和的な関係作り
- ・授業中に使用するゲームは、日本語で体験させておく。
⇒フルーツバスケット、ジェスチャーゲーム(ジェスチャーをあてる、サイモンセックス)
など、子どもたちが全員「あ、〇〇か」と、イメージできることで、日本語での説明を介さなくても英語と動作が直接結びついていく。日本語の説明を最小限にとどめられる。

《子どもたちへの事前指導》

- ・全体への指導事項：
⇒英語ルームでのルールを徹底。(英語ルームに向かう前に毎回、確認。)
「おさない」「はしらない」「ねころがらない」「話す人の目をよく見て」「いい耳で聴く」
(英語と動作でも示し、授業中に注意する必要があるときは、まず英語で指示する。
英語での指示が理解できたことをほめることができる。)
- ・子どもたちのレディネス別の留意点：
○グループⅠ(できる、かんたん!という子どもたちに)：
練習を繰り返す大切さを伝える。
「プロサッカー選手になったら、もう練習しないでいいのかな。」
○グループⅡ(楽しみ!少し不安という子どもたちに)：
「楽しい」と「ふざける」は違うことを伝えておく。ふざけすぎの合図をあらかじめ決めておき、この合図に気付いたら静かに聴くことに集中する、と約束しておく。
○グループⅡの一部及びⅢ(特に不安が強い子どもたちに)：
「はじめての外国の言葉、誰でも間違えて当然。いつもの日本語でも間違える。プロのアナウンサーだって言い間違いをすることもある。」と伝え、不安感の軽減を図る。また、不安が強く足が英語ルームにすぐ向かないような場合は、不安感に共感しつつも、レッスンの見通しを与え、困ったときにはJCも助けてくれること等を知らせることにより「習っていなくても大丈夫!」と思えるよう声かけを行う。

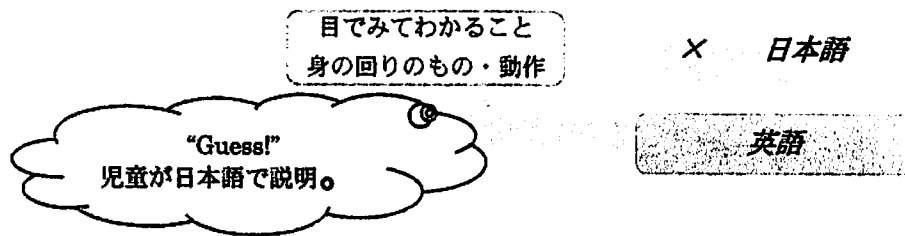
《授業の直前の雰囲気作り》

- ・英語の名札をつける。
⇒アルファベットとひらがなで、周りに子どもたちが好きな色を塗ったり絵を描いたりしたもの。裏側は、英語らしいご褒美シールを貼っていくことで、自らの活動を振り返ることもできるようにする。
- ・授業の日は朝の会で、英語でもあいさつする。英語の歌(BGM)を流す。
⇒同じ歌を英語ルームでも流しておく。入室しながら自然に口ずさめるとよい。

(b) 授業中

- ・教員自らが手本となって英語を多用：
⇒教員自ら、笑顔で楽しむ姿勢をみせ、ALTの英語を繰り返したり、大いに子どもたちを英語で褒めたりすることにより、子どもたちが安心し、意欲が高まるように心がける。
⇒目で見てもすぐわかる動作や、目の前にある身の回りのものは、あえて全部を日本語にしないで英語で繰り返すことにより、その言葉が示すものを推測させて

いく。“Guess!”) ゲームのルールなど、日本語が必要と思われるときは、グループⅠの子どもたちの活躍の場とする。



・指導形態の工夫：

⇒活動は、全体で行うものだけでなく、集中力が途切れる前に、必要に応じて一部グループ毎に発表させるなど、適度な緊張感も持たせるなど、多様な形態を工夫する。しかし、隊形移動に余分な時間を取られないようにし、移動の間も英語の音に包まれながら行う。例えば、大きな一つの輪になるときは、教員が“Make a circle!”と繰り返しながら行う。自然に子どもたちの唱和が起こる。あらかじめ、この言葉を何回唱える間に輪ができるか、子どもたちに予想させ、走らずに、ぴったり、または早めにできたら、大いに褒める。

⇒常にリズムよく行い、指示する言葉も短い英文を多用する。(参考文献②)

⇒ALT・JCとの役割分担をはっきりとする。指導案(LESSONプラン)に明記。英語話者としてのALTは、音声面を中心に担当するが、単なるCD代わりではなく、ジェスチャーを含め、英語話者らしい雰囲気を伝えることができる。JCは、教員同様に、英語を楽しむ姿を見せると同時に、教員・ALTが中心となる場面では不安の強い子どもたちのサポートを行い、子どもたちの不安を軽減する役割も期待できる。

・子どもたちのレディネス別の留意点：

○グループⅠ(できる、かんたん!という子どもたちに)：

授業で活躍する場を用意する。例えば、

→発話をリードできた場面で大いにほめる。

→英語で聞いてわかったこと(ALTとHRTが英語でデモンストレーションしたゲームのルールなど)を日本語で他の児童に説明する。

→デモンストレーションの一役を担う。(必要に応じて事前に練習)

→発音については、英語らしい発音とカタカナ英語の発音の違いに気づかせていくとよい。「びょういん、と びょういん」の違いを例に挙げると理解を助ける。

○グループⅡ(楽しみ!少し不安という子どもたちに)：

英語らしい音を聞かせ続けることにより、自然な発話を促す。

良く聴けたこと、更に英語らしく言えたことなどを見逃さずにほめることで自信をつけさせていく。

○グループⅡの一部及びⅢ(特に不安が強い子どもたちに)：

無理に発話させようとしない。たくさん聞かせて、まねしたくなるのを待つ。

(十分聞かせてから、少しずつ促す。)さりげなくほめる、また、授業後に個別にほめることで負担感を軽減する。

(c) 授業の終わりに

- ・必ず振り返り・評価の時間を確保する。
- ⇒評価のポイント（授業の最後の一つ、お気に入りの英語を選んで言おう、など）は、事前に伝えておく。その時間にかんばったことを自己評価させるとともに、教員、ALT、JCそれぞれが、理由も伝えながら評価する。評価は視覚化し、子どもたちが目で見えてわかる掲示物を活用すると効果的。教員は最後に日本語で、よくできたこと（よく聴いてジェスチャーもまねしようとしたこと・よく声を出せたこと、相手の目を見て活動できたことなど）を伝える。
- ⇒英語ルームを出るときは、今日、学んだ表現や単語を教員、ALT 又は JC に一人ずつ言ってから退室することで、定着を図る。
- ⇒言い淀む子どもたちには、選択肢を与え、選ばせることで、「自分で言えた」という自己肯定感を高めるように配慮し、次の時間への意欲を高める。

(3) 授業を通しての検証とまとめ

《授業を通しての手立ての検証》

○本時の指導（2時間扱いの第1回）（※詳細は資料①：第1学年英語科学習指導案）

①本時のねらい

- ・ALT や HRT の指示に合わせて体を動かしながら英語を口に出すことで、動作を表す英語に慣れ親しむ。〈外国語への慣れ親しみ〉
- ・“Hello Song”などの歌に合わせて体を動かしながら同時に英語を口に出して言うことに積極的に取り組む。〈コミュニケーションへの関心・意欲・態度〉

②教材・教具：CD プレーヤー、CD

③展 開（20分）

過 程 (時配)	学 習 活 動			教師の指導・支援 (○)と評価(◇)
	SS	HRT	ALT/JC	
1 <i>Greetings</i> (1) ⇒はじめの挨拶	あいさつをする。 Hello! I'm fine. Thank you. And you?	Now let's start our English class.	Hello! Everyone. How are you? I'm great, too.	○児童と一緒に答え、英語の学習の始まりを感じられるように支援する。 ○元気にあいさつをしている児童をほめる。
2 <i>Warming up</i> (2) ⇒英語らしい雰囲気を作るウォーミング・アップ	“Hello Song” を歌う 習ったばかりの歌を、大きな声で歌ったり踊ったりする。			◇音楽に合わせてジェスチャーを交えて楽しく歌っている。 〈コミュニケーションへの関心・意欲・態度〉 (行動観察)
	相手の目を見てあいさつできている児童をほめる。		“Hello Song” with gestures	

3 Today's point (2) ⇒今日のめあて	動作について学習することを知る	Today's Lesson is "Stand up!", "Sit down!" "Turn Around!" 今日の学習予定を述べる。	A demonstration of classroom English by HRT/ALT/JC ("Robot")	○英語に不安がある児童も楽しく参加できるようにHRTが繰り返しやってみせる。
4 Activity① (3) ⇒練習のためのゲーム・活動①	リズムに合わせて動作の単語に親しんだりジェスチャーをしたりする。	ALTに習ったことを確認する。	Chants & gestures.	○しっかりと声を出してがんばっている児童を紹介する。 ○単調にならないよう方向・リズム・声の大きさを変えるなどして行う。
Activity② (4) ⇒練習のためのゲーム・活動②	Listening Time ALTの指示に合わせて体を動かす。	ALTの指示でできたことを大いにほめる。	"Simon Says" game by HRT/ALT/JC →SS	○動作を忘れた児童を支援する。 ○英語の音をジェスチャーを交えてなるべく多く聞かせ続ける。
Activity② (5) ⇒練習のためのゲーム・活動②	円になって立つ。 HRT/ALTの指示通りにリズムよくジェスチャーをする。	希望する児童にリーダー役をさせる。	"Follow the Leader" game "Stand up, up, Up!" (slowly, Quickly, etc.) "OK."	◇学習した表現をよく聞いて体を動かしたり、リズムに合わせて英語を繰り返し言ったりしている。 (外国語への慣れ親しみ)(行動観察)
5 Closing (3) ⇒まとめや次時の連絡・あいさつ	感想や思ったことを言う。 HRTの後に ついて あいさつをする。 Thank you, ~sensei. 覚えた動作の英語を 言いながら 教室を出る。	That's all for today. 本時のふり返り→感想を聞く。 Thank you, ~sensei. Make line up!	ALT/JC Today's comments Good bye, and see you next week.	○楽しくできたことをほめる。 ○本時の学習をふり返り、次回の予告をして意欲や期待を持たせる。

④児童の隊形

動作を行うため、机やいすは使わずに、フロアで行う。英語ルームで、英語の雰囲気にもまれて学習を進める。

《まとめ》

本検証授業を通して、以下のような手立てが有効であったと考えられる。

(a) 授業前

- ・『教室はまちがうところだ』（作：蒔田晋治、絵：長谷川知子、子どもの未来社）や『てん』（作：ピーター・レイノルズ、訳：谷川俊太郎、あすなろ書房）などの読み聞かせを行い、間違いを恐れぬよう支援した。
- ・レッスンプラン： Actibityを複数組み合わせ、切れ目なく、動作に関わる英語を何度も聴く仕掛けを用意した。
- ・ALT・JCと事前に打ち合わせの時間を確保し、動作を“ロボット”がコントローラーの指示で動く、というデモンストレーションのために、コントローラーをティッシュボックスを使って作ったり、ロボットらしい銀色の帽子を用意したりしたところ、導入部分で大いに盛り上がり、子どもたちの視線が集中し、楽しい雰囲気づくりができた。
- ・入室時からBGMとして“HELLO SONG”を流し、英語の雰囲気に浸らせた。リズムに合わせて体を動かしながら楽しそうに入っていく様子が見られた。グループIIIの子どもたちも、何度も聴き覚えたとのことから、授業の始まりのときにも、ジェスチャーを交えて歌うことができていた。

(b) 授業中

- ・教員が英語に合わせて楽しんで、大きく動作をすることにより、子どもたちが笑顔になり、英語に合わせて進んでまねしようとする姿が見られた。
- ・聴いた言葉を、すぐにリピートさせようとせず、ゲームを通じて何度も繰り返し聴かせた結果、だんだんと唱和しようとする子どもたちが増え、自然な発話を促すことができた。
- ・英語に合わせて動作できたことを、大いに英語ではめながらゲームを勧めたところ、全ての子どもたちが自信をもって楽しそうに参加する姿が見られた。
- ・英語に自信のある子どもたちは、ゲームのリーダー役として活躍することで最後まで集中を切らさずに参加することができた。

(c) 授業の終わりに

- ・ALT・JCそれぞれから、良かった点（大きなジェスチャーなど）を伝えてもらい、子どもたちは大いに喜ぶ様子が見られた。教員からも、よく聴いて英語に合わせて動作ができたことを褒めたところ、退室の際には、大きくジェスチャーしながら本時に学んだ表現を選んで言うことができた。迷った子どもたちにとっても、“Jump!”などは馴染みが深い表現であるので、全員の子どもたちが発話することができた。
- ・教室に戻った後も、思わず“Listen!”など、本時の目標以外の英語も口をついて出てしまうような子どもたちがいた。
- ・主な子どもたちの変容は次の表の通りである。

カテゴリ	事前	指導上の注意事項	→	事後の感想
グループⅠ	「もう習ってるから知ってる。」 「かんたんに言える。」	正しい発音を繰り返し 聞かせ直すことで矯正。	すき間の時間を 作らない。 英語の雰囲気 に浸らせる。 「いっぱい使った」 充実感→楽しい →もっと・・・！	「幼稚園より 楽しい」
グループⅡ	「楽しみ」 「（習ってないけど）大丈夫かな」	英語らしい音を十分に 聞かせる。歌が有効。		「楽しい」 「よかった」
グループⅢ	「嫌い、わかんない」	「ちゃんと聞けた」（反 応した）ことを認める。 言う速さは競わせない。 （丁寧な発音）		「好き、 楽しいから」

4. 結 論

（１）成果

- 小学校低学年の子どもたちの発達段階ならではの特性を活かして、自然な発話を促すような指導方法を工夫することは、子どもたちが一人ひとりのレディネスに関わらず「英語をいっぱい使った」という充実感をもつことにつながり、小学校ではじめての外国語活動（英語科）を円滑にスタートするために有効であることがわかった。
- 歌、音声、ジェスチャーを多用する手立てを行った結果、特に、入学前から英語に対して苦手意識のあった子どもも、外国語の音声やリズムに慣れ親しむことができ、英語学習の不安の軽減が見られた。
- 英語に対して入学前から自信を持っている子どもたちにも活躍の場面を用意したことにより、小学校の外国語活動（英語科）への意欲・関心を高める契機となった。
- まず、英語の雰囲気に浸らせることにより、学ぶ楽しさや伝えあう喜びを味わった子どもたちからは、「もっと」英語を勉強したい、という感想が事後に多くあった。
- 特に入門期においては、低学年児童の発達段階に合わせた支援が必要であることがわかった。

（２）課題

- 週に20分間だけの外国語活動では学びの定着を図ることは難しい。限られた時間の中で「朝の会」や「帰りの会」などのすき間の時間を利用して、子どもたちが英語の雰囲気に浸り、自ら英語を使う機会も確保していく必要がある。
- 円滑なスタートを図った後も、教材に応じ、子どもたちが「伝わった」喜びが味わえるような時間を確保するための指導方法の工夫をしていきたいと考える。

5. 参考文献

- ①船橋市教育委員会 “English Curriculum grades 1 to 6”
- ②「3語でできる！小学校の教室英語フレーズ集」（アルク）

資料

資料①

第1学年 英語科学習指導案

場 所 英語ルーム

指導者 萩原 裕美

1 単元名 UNIT 2 動いてみよう

2 単元観

本単元では、ALTや教員（以下HRT）の指示に合わせて体を動かしながら同時に英語を口に出して言うことに積極的に取り組む活動を行う。言葉と動作を結びつけて、音楽やリズムに合わせてALTやHRTと一緒に楽しい雰囲気の中で英語を繰り返し言うことで、動作を表す英語に慣れ親しむ。動作を表す言葉は、その後の学習の中でも繰り返し使用され、ゲームなどの活動を行う基礎となることから、英語学習に臨むルールを身につけることにもなる単元である。前単元で、あいさつを覚えて歌やゲームを楽しむ活動を経験しており、言葉と動作を結びつけていく本単元の学習の流れと重なる部分が多い。

船橋市・小学校英語科指導ガイドラインに示された〔小学校：第1学年及び第2学年〕の目標は、「英語学習への興味・関心を持とうとする。」である。これを受け、本単元を通じて動作を表す英語を覚えさせようとするのではなく、外来語として覚えている単語が英語らしく発音されたときの音声やリズムに親しんだり、動作を表す英語の音に合わせて体を動かすことを楽しんだりする機会とするものである。

英語の音声に関しては、ALTを活用し、英語を繰り返し聞くことによって少しでも動作を表す言葉が分かることの面白さを体験させる内容となっている。同時に、はじめて聞く単語については、「難しい」と感じさせないよう、英語らしい音の抑揚をまねてみる面白さを味わわせていくためのチャンツやゲームを取り入れてある。

また、出会って間もないALTとコミュニケーションを図るために、話したりゲームを楽しんだりする場面を設定することにより、ジェスチャーの大切さに気づいたり、習った英語を用いて話してみようとする態度を育てる単元である。

3 児童の実態（男子16人、女子17人 計33人）

児童は4月10日に小学校に入学し、やっと学習や生活に慣れてきたところである。33人中、18人が同じ幼稚園出身で、ネイティブスピーカーによる英語のレッスンを通じて英語の挨拶・動作・色・数字（1～100まで）などの英語に親しんできている。18人の中には、既に英語が苦手と感じている児童も数人いる。

英語を習っているという児童が7人、家庭でテレビやDVDの英語教材に親しんでいる児童や、祖母がスイスにいるなど、外国に興味を持つ児童が数人いるが、英語を学習するのは全く初めてで、新しい経験を苦手とし、口ごもる児童も数人いる。

半分以上の児童は、外国の人と話したり、外国に行ってみたりしたいと、英語の学習を楽しみにしている。

4 指導観

本学級の児童は、初めての経験にはなかなか踏み出せない児童も数人いるものの、覚えて自信を持った歌については元気に歌ったり、体を動かしたりする活動を好むので、ALTを活用し、英語圏の子どもたちに親しまれている歌やゲームを取り入れて指導に当たりたい。

言語材料としての動作を表す英語は、入門期の児童にとってこれからゲームなどの活動でほとんど毎回聞くことになるものであり、楽しく身につけることが大切であると考え。覚えさせようとするのではなく、英語らしい抑揚を真似るおもしろさや楽しさを味わわせる活動を工夫したい。そのための手立てとして、まず、リズムに合わせてALTの表情豊かな発音を何度も繰り返し聞かせることから始め、英語らしい言葉を何度も聞かせた結果として、児童が聞こえたとおりの音を出そうとする意欲を一層高めたい。

また、英語の学習が初めての児童も楽しく参加でき、英語を習った経験がある児童も達成感がもてる学習を展開するための手立てとして、英語を使う活動の種類を増やし、英語を使ってALTや友達とコミュニケーションできる喜びをより多く味わわせたい。ALTとのふれあいを通じて、ALTの国（フィリピン）について、更にいろいろなことをもっと知りたいという意欲が高まることも期待している。

3 単元の目標

- (1) “Stand up, please.” “OK.”などの表現を用いたやりとりを通して、ALTやHRTの指示に合わせて体を動かしながら同時に英語を口に出して言うことに積極的に取り組もうとする。
〈コミュニケーションへの関心・意欲・態度〉
- (2) ALTやHRTと一緒に体を動かしながら音楽やリズムに合わせて英語を繰り返し言うことで、動作を表す言葉に慣れ親しむ。
〈外国語への慣れ親しみ〉
- (3) ALT（フィリピン出身）を通じて、英語ではジェスチャーが重要なコミュニケーションの手段であることを知り、日本との違いに気付く。
〈言語や文化に関する気付き〉

4 評価規準

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度	(2) 外国語への慣れ親しみ	(3) 言葉や文化に関する気付き
・ALTやHRTの指示（“Stand up, please.”など）や“Hello Song”などの歌に合わせて体を動かしながら同時に英語を口に出して言うことに積極的に取り組もうとしている。	・ALTやHRTと一緒に体を動かしながら音楽やリズムに合わせて英語を繰り返し言うことで、動作を表す言葉に慣れ親しむ。 ・“Hello Song”を楽しく歌い、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。	・ALT（フィリピン出身）を通じて、英語ではジェスチャーが重要なコミュニケーションの手段であることを知り、日本との違いに気付いている。

5 単元指導計画(2時間扱い)

時	活動内容	評価				
		コ	慣	気	評価規準	評価方法
1 (本時)	チャンツや歌、ゲームを通して、動作を表す言葉に慣れる。	○	○		・ALTやHRTと一緒に体を動かしたり、音楽やリズムに合わせて英語を繰り返し言ったりしている。 ・“Hello Song” を楽しく歌っている。	・行動観察
2	チャンツや歌、ゲームを通して、動作を表す言葉を復習する。		○	○	・ALT や HRT の指示 (“Stand up, please.” など) や歌に合わせて体を動かしながら同時に英語を口に出して言おうとしている。 ・ALT のジェスチャーを見て、日本との違いに気付いている。	・行動観察

6 本時の指導 (本時 1/2)

(1) 本時のねらい

- ・ALT や HRT の指示に合わせて体を動かしながら英語を口に出すことで、動作を表す英語に慣れ親しむ。(外国語への慣れ親しみ)
- ・“Hello Song” などの歌に合わせて体を動かしながら同時に英語を口に出して言うことに積極的に取り組む。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

(2) 教材・教具

CD プレーヤー、CD

(3) 展開(20分)

過程 (時配)	学 習 活 動			教師の指導・支援 (○)と評価(◇)
	SS	HRT	ALT/JC	
1 Greetings (1) ⇒はじめの挨拶	あいさつをする。 Hello! I'm fine. Thank you. And you?	Now let's start our English class.	Hello! Everyone. How are you? I'm great, too.	○児童と一緒に答え、英語の学習の始まりを感じられるように支援する。 ○元気にあいさつをしている児童をほめる。

2 Warming up (2) ⇒英語らしい雰囲気を作るウォーミング・アップ	“Hello Song” を歌う			◇音楽に合わせてジェスチャーを交えて楽しく歌っている。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度) (行動観察)
3 Today's point (2) ⇒今日のめあて	動作について学習することを知る	Today's Lesson is “Stand up!”, “Sit down!” “Turn Around!” 今日の学習予定を述べる。	A demonstration of classroom English by HRT/ALT/JC	○英語に不安がある児童も楽しく参加できるようにHRTが繰り返しやってみせる。
4 Activity① (3) ⇒練習のためのゲーム・活動①	チャンツで動作の言葉の学習をする。			○しっかりと声を出してがんばっている児童を紹介する。 ○単調にならないよう方向・リズム・声の大きさを変えるなどして行う。
Activity② (2) ⇒練習のためのゲーム・活動②	クイズ形式で聞き取りの学習をする。			○動作を忘れた児童を支援する。 ○英語の音をジェスチャーを交えてなるべく多く聞かせ続ける。
Activity② (5) ⇒練習のためのゲーム・活動②	ゲーム形式で単語の復習や会話の練習をする。			◇学習した表現をよく聞いて体を動かしたり、リズムに合わせて英語を繰り返し言ったりしている。 〈外国語への慣れ親しみ〉(行動観察)
	円になって立つ。 HRT/ALTの指示通りにリズムよくジェスチャーをする。	希望する児童にリーダー役をさせる。	“Follow the Leader” game “Stand up, up, Up!”(slowly, Quickly, etc.) “OK.”	

5 Closing (5) ⇒まとめや次時の 連絡・あいさつ	感想や思った ことを言う。 HRTの後に ついて あいさつを する。 Thank you, ~sensei. 覚えた 動作の英語を 言いながら 教室を出る。	That's all for today. 本時のふり返し →感想を聞く。 Thank you, ~sensei. Make line up!	ALT/JC Today's comments Good bye, and see you next week.	○楽しくできたこと をほめる。 ○本時の学習をふり 返し、次回の予告を して意欲や期待を 持たせる。
---	---	---	--	--

(4) 児童の隊形

動作を行うため、机やいすは使わずに、フロアで行う。英語ルームで、英語の雰囲気
に囲まれて学習を進める。